

## 『アスレティックパフォーマンス向上のためのトレーニングとリカバリーの科学的基礎』

## 正誤表

本書におきまして、下記の通り記載内容に誤りがございました。訂正してお詫びいたします。

(2022年2月14日作成)

刷	頁	該当箇所	誤	正	更新日
1・2刷	66	左段上から11行目～	例えば、野球の投球でみると重さ0.144kgのボールのスピードが10m/sから41m/sに変化した際、運動エネルギーの変化が約228Jとなり、その分の仕事が行なわれたことになる。この仕事が行なわれた0.5mの移動距離でなされたとするとその区間で456Nの力がボールに加わり続けたこととなる(図8)。	例えば、野球の投球でみると重さ0.144kgのボールのスピードが10m/sから41m/sに変化した際、運動エネルギーの変化が約114Jとなり、その分の仕事が行なわれたことになる。この仕事が行なわれた0.5mの移動距離でなされたとするとその区間で228Nの力がボールに加わり続けたこととなる(図8)。	2022/2/14
	67	図8	スピード：10m/s Ek：14.4J スピード：41m/s Ek：242.1J	スピード：10m/s Ek：7.2J スピード：41m/s Ek：121.0J	2022/2/14